

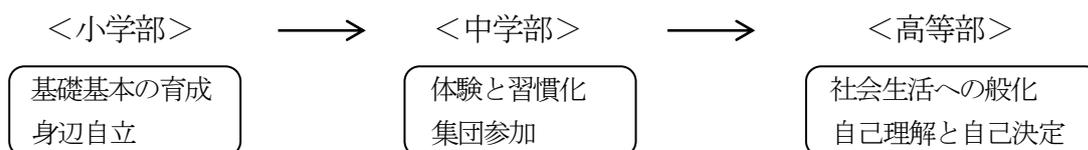
特色ある教育活動等

1 「めざす児童生徒像」の実現に向けた小中高一貫教育

本校では、校訓「明朗・協力・自立」のもと、目指す児童生徒像である「健康で明るく笑顔いっぱいの子」「思いやりがあり友達と仲良く助け合う子」「自分らしく生き生きと輝いている子」「自立に向かって主体的に行動する子」を具体的な姿として設定し、生徒が仲間と関わり合いながら自ら生き生きと活動できるように、教育内容を工夫し、小学部・中学部・高等部の連携を重視した一貫教育を行っている。

2 児童生徒一人一人の自立と社会参加をめざした教育活動

～川棚特別支援学校は、やることが分かって、自分でやろうとする意欲・態度を育成する～



① 個別の教育支援計画と個別の指導計画の作成

本人や保護者のねがいを受け止め、関係機関等と連携して、個別の教育支援計画（個別の指導計画を含む）を作成し、キャリア発達の視点から、児童生徒一人一人の自立と社会参加を目指した教育活動を行っている。

② 個人目標を達成するための教育課程の工夫

自立・社会参加を目指した個人目標を達成するために、発達や障害の特性に応じて、指導形態や学習集団等を考慮するなど、教育課程の編成を工夫しながら教育活動に取り組んでいる。

小学部では「生活単元学習」「教科」等、中学部・高等部では「作業学習」「生活単元学習」「総合的な学習の時間」「教科」等の教育活動を行っている。また、複数の障害を併せ有する児童生徒など、実態に応じて、「自立活動」を中心とした教育活動を実施している。

③ 施設設備

自立・社会参加を目指した教育環境の一つとして、交通信号機及び横断歩道を校内に設置している。安全に生活をおくることができるよう、毎日の登下校時に指導を行っている。

3 地域と共に歩む学校づくり

(1) 地域に根ざした教育活動

本校では、学校行事を通して地域との交流を深めている。

特に、文化祭（川棚げんきまつり）は、PTA（おやじ組を含む）、学生ボランティア団体等に協力を依頼し、地域の方々と協働で行っている。

また、各部の特徴的な教育活動としては、次のものが挙げられる。

<小学部>

① 地域の学校や居住地校との交流及び共同学習の推進

小学部では、川棚町立小串小学校（全体交流、学年交流）、郡内特別支援学級（小4のみ）の他、居住地校と交流及び共同学習を行っている。

② 地域との関わりや体験学習の充実

地域との関わりをもち、実際の体験学習を通して知識の定着や生活能力の育成を図るため、近隣の商店での買い物学習や、公共交通機関を利用した校外学習、レジャー施設を利用した余暇活動、調理実習等を行っている。また、特別活動では、地域のボランティアによる絵本の読み語り活動などを行っている。

〈中学部〉

① 地域の学校との交流及び共同学習の推進

中学部は、東彼杵町立千綿中学校（中1、中2）、郡内特別支援学級（中1のみ）、居住地校と交流及び共同学習を行っている。

② 作業学習の一環としてのバザー活動の実施

作業学習で製作した製品（はがき、小物等）や収穫した作物などを、文化祭（川棚げんきまつり）のバザーコーナーで販売している。このような活動をとおして、生徒は、働くことの喜びを実感し、更なる意欲を高めていく。

③ 地域の特色を活かした学習の充実

生活単元学習では、買い物学習や公共交通機関の利用等の体験学習、総合的な学習の時間では、地域の特色を活かし、「老人会との交流活動」（中2、中3）、「小串郷駅や地域の公園の清掃（地域貢献活動）」（全学年）などを行っており、生徒にとっては興味関心の高い学習となっている。また、作業学習の校内実習では、町内の製菓店が菓子を詰める箱折作業をさせていただく等、地域と深い関わりをもちながら学習を行っている。

〈高等部〉

① 地域と連携した作業学習の充実

校内での作業学習をはじめ、近隣の事業所等を中心にした地域展開を図り、地域の人材を活用することで職業的自立に必要な基礎的技術の習得を図るとともに、丁寧な作業やより質の高い製品作りを目指すことで生徒の達成感・成就感を育む。

② 近隣高校との交流及び共同学習の推進

県立川棚高校生徒との交流及び共同学習を実施し、互いの学校での授業を体験し、相互理解に努める。

③ 将来の社会参加を保証

校内実習や地域の関係機関と連携した現場実習を積極的に実施し、生徒の障害特性や個々の実態に配慮したきめ細かな指導・支援を徹底することで、地域の中で生き生きと生活でき、自立や社会参加に向け、自己選択・自己決定する能力や態度を育てる。

(2) 施設との連携

本校の児童生徒の3割が、隣接する知的障害児入所施設「第四長崎慈光園あすなろ」から通学しているため、日々の連絡に加えて、担当職員との連絡会を行い、指導の連携を図っている。また、教職員研修においても互いに参加を呼び掛け、研修を深め合うようにしている。さらに、「個別の教育支援計画」における実態把握についても共通理解を図り、支援目標を立てるようにしている。

(3) 特別支援教育のセンター的役割

地域の幼稚園・保育園・小学校・中学校・高等学校等に在籍する幼児児童生徒やその保護者・保育士・教職員、関係諸機関の担当者等のニーズを把握するよう努め、教育相談活動を充実させる他、地域のネットワークづくり及びそのサポートに取り組んでいる（例：川棚町特別支援教育コーディネーター連絡協議会のサポートなど）。

また、地域の方々や関係諸機関に対して、学校公開や施設開放、職場見学や職場実習等を行うなど、特別支援教育及び障害のある児童生徒への理解啓発活動を積極的に行っている。

(4) 学生ボランティアの参加

運動会、文化祭（川棚げんきまつり）などの学校行事には、近隣の大学の学生がボランティアとして参加しており、学校行事運営のための一助となっている。

4 恵まれた自然環境を生かした教育活動

鮮やかな緑に包まれた自然環境を積極的に生かして教育活動を展開している。

（田畑・里山・小川・海などの校外自然観察・散策…全校）